

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念を玄関、事務所、職員トイレ等、常に目に入るような場所に掲示している。又、2～3か月毎に考えられた施設の月間目標も事務所に掲示し、職員一人一人が意識して実践につなげている。	開設時にホーム独自の理念を作成し、管理者会議にて検討した月間目標も事務室に掲示し、職員が理念を意識して業務を遂行できるようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から畑で採れた野菜を頂いたり近所の子供さんから手づくりの飾り物を頂く事もあった。新型コロナウイルス感染症流行により中学生の体験学習は受け入れできないが日頃の道での挨拶は気持ちのいい関りが持っている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、近所の方から畑で採れた野菜を頂いたり、近所の子供さんから手づくりの飾り物を頂くなど、地域との交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の支援方法について積極的にお話する機会はないが、見学に来られた方には助言できる範囲でお話しさせて頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症予防を図る為、書面での形だが2か月に1回定期的に開催している。入退居状況や活動報告等を行い、参加者からは意見やアドバイスを頂くことでサービスの向上に活かしている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面送付としていますが、地域住民、市の担当者、他社会福祉法人の役員、特別養護老人ホーム施設長、民生委員等からご意見を頂いています。委員へ事業所の状況報告を行い、頂いたご意見はしっかり受け止めて、サービスの向上に繋げるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染防止の為、市の担当者から運営推進会議に参加してもらうことはできなかったが、市の担当者に運営推進会議の資料、議事録を提出したり、施設の状況報告、連絡調整を行い協力関係を築いている。	市の担当者には運営推進会議の資料・議事録を提出しており、事業所の状況の報告を行っているほか、状況に応じて連絡調整を行い、協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は20時から翌朝7時までとし、日中は施錠せず安全で自由に行動出来る環境作りに努めている。身体拘束に関しては施設内研修を行い職員間で周知している。また身体拘束廃止委員会を設け3か月に1回委員会を開催している。	法人にて身体拘束廃止委員会での検討や、身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、玄関の施錠も夜間のみとするなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、身体拘束、虐待についての施設内研修が行われており職員全員が理解し業務にあたっている。時には声かけや支援の仕方が虐待になっていないかお互いに声を掛け合い注意できる環境づくりと防止に努めている。	事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、職員の言葉遣い等も気になる点があれば職員同士で注意しあい、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は行っていないが、学ぶ機会を設け職員一人一人が理解を深め全職員で周知していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っており丁寧で分かりやすい説明を心掛けている。また、不安や疑問があれば十分な説明を行いご家族様に理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスや家族の来所持、運営推進会議の機会に、ご家族様から意見や要望をお聞きしている。意見等出た場合にはユニット会議にて職員全員が周知、対応出来るようにしている。可能な限り運営に反映している。	日々の面会時や電話連絡、サービス担当者会議などの機会に、ご家族からの意見や要望を確認し、サービスの質の向上に繋がられるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議、ユニット会議にて話し合い意見交換の場を設けている。その他にも日頃の業務中での意見や提案も聞き入れながら職員が向上心を持って業務出来る環境作りに努めている。管理者はいつでも職員の意見を聞くように努め、その意見が運営に反映出来るよう理事長に伝えている。	毎月のユニット会議、リーダー会議にて職員との意見交換の場を設けているほか、日頃の業務の中でも意見や提案を確認するようにしており、その内容を運営に反映できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人が取得している資格や職員個々の努力や実績、勤務状況を資格給に反映させており、個人に合わせた就業形態や、やりがいをもちながら働ける環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の経験や実績に基づき法人内部研修や外部研修に参加できる機会を確保している。(コロナウイルス感染症の流行がみられてからは感染予防の為、外部研修は行っていない。)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症流行の為、外部研修での交流は行えていないが、法人内での施設交換研修を行い良いところを学び得た事を業務に活かせるようサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行いご本人のこれまでの生活を理解し、要望や不安がないか伺っている。安心してホーム生活が送れるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に不安や要望をお聞きしている。面会時にも困っていることがないか要望に耳を傾け良い関係作りに努めている。(コロナウイルス感染症流行での面会制限のため日頃の様子を電話等で細目にお伝えしている。)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネージャーからのお話を伺い必要な支援を見極めご本人にとってより良いサービスを提供出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様お一人おひとりの得意な事や出来る事を把握して日々の生活の中で出来る作業をお願いしている。お手伝いして下さることで職員と一緒にアットホームな関係を築けるよう目指している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナウイルス感染症流行の為、面会制限を行っているが、電話やオンラインでご家族様とお話して頂いたり、毎月担当者からご家族様へお手紙等でご本人の状態をお伝えしご家族様と共にご本人を支えていく関係を築いている。	事業所広報を年に4回作成し送付しているほか、居室担当者がご利用者毎にお手紙を作成し送り、ご家族と情報を共有できるようにしています。また、面会時などは話を伺い、サービス担当者会議にはご家族にも参加していただけるようにし、協力関係を構築しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋や、かかりつけ医等に行って頂き、ご家族様の協力を得て馴染みの関係を維持出来るよう努めている。コロナウイルス感染症流行の為外出制限があり、出かけられない時もあった。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、親族、友人に面会に来て頂いたり、ご家族の協力を得てかかりつけ医やなじみの床屋も利用するなど、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	調査時点で外出・外泊届の様式が元号が変わっていない古い様式も使われていましたので、見直されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が楽しく良好な関係を築けるようお一人おひとりの性格、その日の状態の把握に努めご利用者様同士の交流が難しい場合は職員が共に過ごす時間を設け安心感を持って頂ける様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階では相談されていないが契約が終了した後も相談がある場合は支援協力させていただく旨をお伝えしている。外部で会った際は挨拶やお声掛けさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや意向を確認し、プランに反映している。本人の言葉で確認が困難な場合は表情や仕草から思いを汲み取りご家族様からも意向を伺っている。	日常のやりとりでご利用者から頂いた要望についてはできるだけすぐに対応するようにしています。また、日々の生活の中で確認したご利用者の意向や面会の際などにご家族から聞いたことは生活記録に記入し、職員間で情報を共有し、ご利用者の支援ができるようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人ご家族、担当のケアマネジャーから生活歴を確認し、情報の把握に努めている。又、記録に残し全職員で共有している。	暮らしの情報シートを活用し、契約時にご家族にも生まれてからの環境やよく行った場所等を記入してもらい、個々のご利用者のこれまでの暮らしの情報を整理しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したら、まず生活記録やバイタルチェック表、申し送りノートを確認し、生活の様子や心身の状態の把握に努めている。面接時にご本人の生活歴等を伺い、入居後は生活記録に細かく記録し、職員間で把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様がより良く施設での生活が送れるよう、アセスメント、モニタリングを実施し、ご家族様にも参加して頂き、カンファレンスを行っている。ご家族様のご意向を踏まえてその人らしい生活が送れるような介護計画を作成している。	介護計画の実施状況を日々の生活記録にも記入するほか、計画作成担当者の定期的なモニタリングにより介護計画の達成状況を確認しています。また、サービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、介護計画に関する意見や要望を伺うようにし、介護計画に反映させるようにしています。	サービス担当者会議録の開催時間が記入されていない方や、モニタリングシートのご家族への説明日に記入モレがある方もいましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容に沿って実践状況や日々の様子変化等、生活記録に細かく記入し職員間で共有している。 生活記録をモニタリングに反映させ介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診はご家族様をお願いしていたが、コロナウイルス感染症予防の為、ご本人は行かずお薬のみ処方して頂いていた。リネンの洗濯や理髪店の利用もご家族が対応できない場合はホームで代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナウイルス感染症予防の為、ボランティアを呼んでのレクリエーションや外出行事は中止している。お弁当を出前して召し上がって頂き外食の雰囲気や少しでも感じて頂いたり、美容師をお呼びし玄関先でご希望のヘアスタイルにカットして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診して頂いているが、コロナウイルス感染予防の為、特段変化が見られない場合は御家族様に説明し承諾を得て、お薬だけの処方や往診にて対応している。その際に手紙やお電話にて主治医とも連携を取っている。	ご家族の受診支援を基本とし、ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医にて受診してもらい、必要時には事業所からもご利用者の状態を文書にまとめ、付き添うご家族を介して医師との情報交換が行われています。また、緊急で受診が必要な場合は職員が受診支援を行ったり、医師とのやりとりを直接行いたい時は職員が同行する等の支援も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週一回出勤している。ご利用者様の体調や様子観察、相談等日中、夜間問わず何かあればすぐ連絡がとれ、指示を仰ぐ事ができており、適切に対応できる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は管理者や看護師が出向きホームでの様子を伝え情報提供している。入退院はご家族様、医療機関との連携を取り、入院中も状態確認の連絡を取り合って情報の共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にグループホームとして出来るケアを説明しており、医療行為がない状態であればグループホームでの生活を継続して頂けることへの同意を得ている。状態変化に応じてその都度相談させて頂き、ご家族の意向もふまえて必要なサービスが受けられるよう努めている。	契約時にグループホームとしてできることをご説明し同意を得ており、家族の集いの場でもご家族へ事業所の考え方を説明する機会を設けています。ご利用者の状態を見ながら必要時には話し合いの機会も設け、ホームとしてできる支援を行っています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師によるご利用者様の急変時の対応の仕方や内部研修、消防立ち合いのAED講習を毎年定期的に行っており、緊急時の連絡網は職員全員に配り周知している。AEDを設置しており、毎年救急隊から使用方法と心肺蘇生の指導を受けているが、今年はコロナウイルス感染防止の為に実施出来ていない。	事業所でも急変時マニュアルを用意し、今年度は新型コロナウイルス感染防止の為に自粛しましたが、例年は消防署員に来て頂き救急法やAEDの使用研修なども行い、職員が適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回消防立ち合いのもと、日中想定と夜間想定避難訓練を実施し、ご利用者様も参加して頂いている。非常食も備蓄しており、定期的に点検している。	事業所では年に2回、日中・夜間の火災を想定した避難訓練を行っており、災害時を想定した非常用の食品も確保されていました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格などを把握し、その方の人格を尊重しその人らしい生活ができるよう考慮している。尊厳を損なわないよう対応を注意し努めている。	契約時にプライバシーの取り組みに関する説明をし同意を頂いているほか、事業所広報やホームページへの写真の掲載についても確認がとられています。また、接遇研修も行っているほか、現場でご利用者に対する職員の言葉遣いにも気が付いたらすぐに指導するなどの対応も行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしさを表現できる様に雰囲気や環境作りを心掛けており、表情や仕草、ジェスチャー等で相手の思いを汲み取れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りこれまでの生活習慣を尊重し、お一人おひとり毎のペースで生活できるように支援している。入浴や行動等無理強いせず希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類やその人らしい身だしなみや好みの服装を楽しんで頂ける様お手伝いや、衣類の整理整頓を支援している。理容師の希望の際は出張サービスにて対応しており、コロナウイルス感染症対策で玄関先でして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で収穫した野菜を活用した、季節の食材を取り入れた献立を作成し提供している。テーブル拭きや食器洗い等食事の準備や片付けのお手伝いを職員と一緒にご利用者様と行っている。	食事の準備、後片付けもできる範囲でご利用者と一緒に行われています。事業所の畑で野菜の収穫を一緒に楽しんだり、レストランのテイクアウトや配食お弁当を利用したり、ご利用者と一緒にごちまき作りなどの機会も設け、食事を楽しんでいただけるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、季節感を考えたメニューを心掛け提供している。食事量、水分量をチェック表に毎日記入しており、個々におかゆや刻み、水分にトロミを付けてムセ対策等に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、必要に応じて舌ブラシの介助をさせて頂いている。義歯消毒は週二回洗浄剤を使用し、週一回のコップ消毒、月一回の歯ブラシ交換を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の状態に合わせてトイレ誘導や見守り介助をさせて頂いており、排泄チェック表を使用し排泄パターンの把握に努め、失敗が最小限になるよう支援をおこなっている。	排泄チェックにより、ご利用者の排泄パターンや仕草を職員間で共有し、ご利用者に合わせたトイレ誘導が行われています。	調査時点で排便の記録に記入モレがある箇所もありましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表に水分量を記録し細目に水分を摂って頂ける様声掛けを行っている。毎朝ラジオ体操にもお誘いし、毎朝にオリゴ糖入りコーヒーを飲んで頂いたりしており、職員間で排便の有無や量を情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はご利用者様の体調や希望にあったタイミングでお誘いしている。ご本人の状態によっては職員2人で入浴対応させて頂いている。	入浴時は職員との会話を多く持つことを意識し、入浴を嫌がる方へも職員間で声を掛けるタイミングを工夫したり、同性介助での支援も行うなど、ご利用者に合わせた支援を行い、入浴を楽しんでいただいています。	調査時点で入浴の記録に記入ミスがある箇所もありましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休む事が出来る様に居室内の灯りや温度調整を配慮している。今までの生活習慣や身体の状態に応じて休憩時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際に内容や追加等、変更がないか確認を行い、記録に確実に記入し職員間で把握し、飲み忘れのない様に薬セット、薬チェック、配薬時の声掛けを職員二人以上で行っている。服用後の体調変化を見逃さず必要に応じてサマリーを用意し、医師との連携を図り細かく記録し職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を把握し、その人が得意とする事を積極的に発揮して頂ける様、家事作業や気分転換に繋がるレクリエーションや行事計画を考え企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルス感染症予防の為、外出行事やご自宅へ行かれる事を控えさせて頂いているが、天気の良い日にお一人ずつ庭先に散歩へお誘いし少しでも気分転換になるよう努めている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年ではご利用者と一緒に日々の買い物に出かけたり、季節に合わせてお花見や紅葉見学、ぶどう狩りや神社への初詣などにも出かけ、ご利用者に外出を楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお小遣いは事務所の金庫でお預かりしている。購入希望の物がある時は、コロナウイルス感染予防の為、職員が代行し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された際は職員がお繋ぎしお話しして頂いている。ご家族様にお手紙を書かれ、渡して欲しいと仰る方にはご家族様が来所された際にお渡ししやり取りが出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の壁に季節に合った装飾をし四季を感じて頂ける様工夫している。ご自分で作成された塗り絵や貼り絵を居室に貼って鑑賞されたり、ご利用者様が心地良く過ごして頂ける様室温、明るさ音など調整し配慮行っている。	リビングは季節を感じられる様にご利用者の作品を飾ったり、畳コーナーにはテーブルやソファが置かれ、新聞を読んだり、自由に過ごして頂くようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	転倒や危険のリスクが少なくなるように食席の配置の工夫や、リビングだけではなく畳スペースやソファを設置し、お一人で過ごせる空間や、気の合う方と過ごして頂ける様配慮行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から以前から使用していた馴染みのタンスやテーブル等の家具やテレビを持って来て頂き、ご自宅の部屋の様にご過ごして頂ける様に配慮している。配置の際に危険がないようご家族様とも相談しながら行っている。	使い慣れたタンスやテーブル、時計などの家具や愛着のある品物を持ち込んでもらえるよう推奨し、ご利用者が居心地良く、安心して過ごせる居室になるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間は全てバリアフリーになっており、扉も引き戸になっている。杖歩行の方や歩行器使用の方にも安全にホーム内を歩行して頂ける様になっている。トイレの場所に張り紙を貼り、分かりやすく、使いやすくなるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				